

皆さま、師走^{しわす}に入り寒さが増しましたが、いかがお過ごしでしょうか？今年も早いもので残り10日ほどになりました。

11月15日(水)、1・2年生の各クラスにおいて、人権教育LHR公開授業が行われました。授業参観後は、保護者研修懇談会を行いました。7名と少ない参加でしたが、参加した保護者が、それぞれの思いを語り、活発な意見交換ができました。

また、11月10日(水)には、育友会人権教育専門部主催で、人権教育研修会を松柏会館(2階大会議室)で開催しました。講師に繁原美保さんをお招きし、『大人から子どもに伝えたい性的人権』というテーマで、講演をいただきました。

公開授業と、研修にお越しいただけなかった皆さまに、少しでも当日の内容をお知らせできたらと思います。

育友会人権教育専門部長 竹歳 眞澄



人権教育研修『大人から子どもに伝えたい性的人権について』

11月10日(金)、講師に繁原美保さんをお招きして、『大人から子どもに伝えたい性的人権について』というテーマで研修を行いました。当日は、13名(保護者10名、職員3名)の参加がありました。一部ではありますが、参加者の感想を紹介させていただきます。

参加者の感想

講師の繁原さんの言葉が、とても参考になりました。子どもの進学まで日が少なくなる今、言葉で伝えられることは言葉で伝え、自分で言うのが難しそうなことは、手紙にして、子どもに伝えたいと思いました。

すごく大切なテーマで、くり返してでも、生徒、保護者が講演を聴いて学習しないといけない

ないと思いました。やはり自分を大切にできないと、他人も大切にできないと思うので、普段から正しい知識を得る教育が大切だと思いました。

また、『子宮頸がん』が若い人に増えているという話も聞くので、男子にも正しい知識が必要だと思いました。家でも機会があれば、性に関する話をしています。もっと具体的に話をするように続けていきたいと思いました。



繁原さんの研修の様子

自分の安心と安全を考えたなら「No」と言うことも大事」ということや、できなかったら逃げてもいいということを教えていくということが1番印象に残り、わかった気がします。

性暴力に関して、その時、その時で違うということを、もっとリアルな事例で教えてほしいかったです。とりあえず、被害届は、やっぱり女性になるような話が多く残念かなあと。机上だけでなく、教科書、頭の中でだけでなく、リアルな感情で話しが聴きたかったです。

人権教育 L H R 公開授業

11月15日（水）人権教育LHR公開授業（14:35～15:35 の 60 分間）を行いました。当日は、保護者13名、外部機関より7名の参観がありました。公開授業後の保護者研修懇談会では、授業を参観した感想や、参加保護者自身の人権教育に対する考え方を話し合ったり、現在の人権教育の実施状況や、最近おこった差別の実態などを話し合ったりしました。

◎1年：「自らの課題とは」～識字から学ぶ～“銀行窓口でのやりとり”から考える

文字が書けない人が、銀行へ行きました。その人は、窓口の人に「老眼で、ぼやけて字が見えないので代筆をお願いします」と嘘を言って代筆してもらいました。次に銀行に行った時、再度、代筆をお願いしたら『カウンターにメガネを置いたので、そちらをご利用ください』と言われてしまいました。この人は、「本当は字が書けないです」と言えず、頼みにくくなり、ますます銀行に行きにくくなってしまいました。「字が書けない」と正直に言えないのは何故なのか。また、「字が書けて当たり前」という現代社会の中で生きていることで、「無知・無関心・無意識」となり、差別につながることもあるということに気づくことが大切であるということを考える授業です。



◎担任の先生の話をお聞きながら、熱心に考える生徒の姿が印象的でした。

◎2年：テーマ別による人権教育LHR（調べ学習を通して自らの課題を考える）

クラス	クラス別学習テーマ
2年特進	性に関する差別・人権問題について
2年健総1組	仕事に関わる差別について
2年健総2組	人種差別について
2年調理科	男女差別について～男だから・女だから～



◎2年生の各クラスでは、パワーポイントを使い、調べた内容を発表していました。

ウラへ続きます

～保護者研修懇談会より～ （一部抜粋）

- ・昨年、県内でも差別事象がおこっている。県内在住の方から聞いたが、高校での人権教育の取り組みが、きちんとできていなかったため、恋人が（被差別）部落の人で、「付き合うのは辞めなさい」と親に言われたという相談や、結婚するとなった時「結婚相手が部落出身者ということで、親ではなく、親戚から反対されている」というような相談が、その人にトータル5件もあった。部落問題の知識がないことで、どうすればいいのか。自分で「どうすることもできない」と考える人が、その方に相談に来られるようです。
- ・小学校区で、地区（被差別部落）がないところもあるが、地元のこととして、もっと取り上げるべき。「被差別部落の人が学校に行けない」という話をした時、生徒は「不登校だから」とか「いじめられたから」ということを想像して、部落差別に結びつかないと思う。
- ・私も祖母から、「あの場所から先には行くな」と言われていた。だから、どこに地区（被差別部落）があるかを知っている。連れ合いは倉吉じゃないので、仕事で情報を知ったのか、「あそこって被差別部落なのか？」と聞かれて、教えたこともあるが、詳しく話はしていない。一時期、部落のことを知らない方がいいと思っていた時期もあるけど、突っ込んだ話をしてもらった方が、生徒のためになると思う。
- ・祖父母から孫に対する「部落はダメ」という刷り込みは、現実には本当に多いと思う。
- ・昔は、「宣言します」みたいなことで、（部落出身の）同級生が発表したことがあったけど、今、その発表がなくなったのは、発表しなくても…という考えからですよ。だけど、同級生に聞いたら、『言ったことでイジメに繋がったけ、言わん方がよかった』って言ってました。あと、その子（結婚して中部地区外に住んでいたが離婚後も県内に住んでいる）に、「もう倉吉の実家に帰って来たら？」って言うても、『絶対に帰たくない』って言うていました。だから、立場宣言してイジメられたことが、今でも残っていると思います。
- ・生徒には答えられる力を持ってほしいです。「あそこは部落…」とか言われても、「違う」「その考えは間違っている」と言える力をつけるためにも、親から子に話をしていけないといけません。「人権教育は必要ない」という意見も多くありますが、学ばなければ、「あそこが部落」と言われても、反論できないし、語れない。学んで、知識を増やすことで、自分自身で語れるようになってほしいです。

保護者研修懇談会に参加して

人権教育部 牧田 雅啓

「中部地区の中学校では、部落問題を、取り上げる学校も増えてきているが、県外、中部外の中学校では、障がい者や、ネットに関する問題のことを取り上げ、“部落差別”を取り上げないところが多い。人権教育ではなく“道徳”で、人間関係を取り上げる学校も多くあるため、“部落”という言葉を知らない生徒もいます。」と紹介したところ、「えっ？習わないところもあるの？私たちはしっかり学習していたのに!!」という保護者の反応が印象的でした。

“差別はなくなってきている”と言われる人が多いですが、現実には「差別に出会っていない・気づいていない」のだと思います。学習して自身を見つめ直す機会をつくらなければ、何が差別になるのかも気づかず、自覚しないままに「差別する者＝加害者」になり、知らないところで「差別される側＝被害者」を生み出すことになる。自らが学ぼうとすることの大切さを感じていただきながら、親の発言を聞いて、生徒（子ども）が成長していくことを考えると、教員や保護者が、積極的に学び、対処、対応できる大人になっていくことが大切であると思いました。

～公開授業の参観者の感想より～

- ・自分自身の勉強になり、良かったが、保護者の参加者が少なく残念。
- ・身近なことでも、気づかない問題で、気づくことができた。
- ・授業のテーマが生徒にとって、身近なものであれば、もっと意見が出たと思いました。考えがあっても、なかなか発表したり、紙に書いたりするのに、抵抗ある生徒もいると思うので、形にこだわらず、色々な考えを共有できる授業であってほしい。
- ・「字が書けない・読めない人がいるのか？」ということが、自分のこと、身近なこと、周りのこととして、考えられない授業のように思えた。
- ・高校生に対する人権教育は、親も考えさせられることも多く感じました。子どもたちも、たくさん話し合っていて、「すごい!!」とも思いました。
- ・今の生徒は、小・中学校で、アクティブ・ラーニングの手法を用いた授業を受けてきています。それをふまえて、もっと生徒同士の関わりの中で、学びがあるといいと思います。人権教育の授業では、価値観をぶつけ合って学びを深める場面がもっとあっていいと思いました。
- ・2年生の班学習は、個々の意見を言い合えて積極的に参加しているという意欲が感じられた。



- ・人の気持ちが考えられない人が増えている中で、授業でじっくり考えて学習していることはよかった。本当は、学校（授業）で習わなくても、日常生活で考えられるのがベストだと思う。授業で、考えて答えを出せても、その場になったら、実行できないと思うので。学んだことを生かして、行動・発言できるようになってほしい。
- ・授業の中で、発言する生徒が少ないのは残念。発表の声も小さく、小学校で、場に応じた声の大きさに気をつけることを習ったはずなのに…。

昨年（2016年）におこった差別事象 ～他人事にしないために～

- ①東部…公的な場所にあるトイレに差別落書きがあり、発見者が、その職員（警備員）に報告したが、現場の状況等の写真等を撮らず、落書きを消してしまったという件。差別事象に対する認識の甘さがあったのでは？と問われた事象。
 - ②中部…倉吉市役所人権局に「倉吉市〇〇は、同和地区か？引っ越しを考えているが、同和地区であれば、別の場所を考えたい。」という差別的な問い合わせ電話があった。電話対応した職員は「同和地区なら住まない。そこを避けるというのは、差別に加担していると思われませんか？」と、丁寧な対応をするものの、「私は差別をしようと思っていない。この問題を気にしない人もいれば、気にする人もいる。私は気にする人間だ。教えてくれないのなら、切らせてもらう。」と、電話が切られるという事象。
 - ③西部…新入社員の研修を行うため、新入社員どうしで、ワゴン車に同乗して、外部の研修へ向かう車内で、ある社員が、「あそこは部落だから気をつけないう。」というような発言をした事象。
- ◎「部落差別は昔のこと」ではありません。ぜひ、「自分磨き」をしてみてください。